



お客さまが暮らす 社会・環境との絆

安心して豊かに暮らせる社会を実現するために、そして地球環境を守るために、解決しなければならない問題、取り組まねばならない課題があります。

当社では、生命保険本来の相互扶助の精神に基づいて、商品・サービスの提供だけでは実現できない、さまざまな立場の方々への支援活動や、環境保全活動などに取り組んでいます。

社会貢献活動の考え方

会社、従業員、財団などがそれぞれの特性にあわせた社会貢献活動に継続して取り組んでいます。

息の長い社会貢献活動をめざしています

会社、従業員、財団——3つの柱で

当社は、真に安心して豊かに暮らせる社会を実現するために、「社会貢献活動基本方針」を制定し、4つの観点を

重視して、さまざまな分野で社会貢献活動に取り組んでいます。

その際、「会社の実施する事業」「従業員の参加によって推進する事業」「財団などの実施する事業」の3つを柱として、それぞれ継続性と安定性を重視した、息の長い活動をめざしています。

社会貢献活動基本方針

- **社会福祉分野における重点的な展開**
相互扶助の精神に基づき、生命保険事業では直接カバーできない人々に対し、クオリティの高い支援を行ないます。とくに、障がいのある人および高齢者への福祉面に重点を置いています。
- **公共性と先見性**
社会貢献活動の展開にあたり公共性を重視するのはもちろんのこと、NPOなどの市民参加型福祉団体とも連携し、社会のニーズに的確に応えます。
- **従業員参加型の地域貢献活動**
従業員がボランティアとして行なう地域貢献活動を大きな柱に位置付けます。
- **事業の継続性と安定性**
社会貢献活動の継続性と安定性を重視し、息の長い活動に取り組みます。

財団ご紹介

財団 明治安田厚生事業団
1962年6月設立。「新宿健診センター」での健康診断や体力医学研究所の健康づくりプログラムの開発を通して「健康な長寿社会づくり」に貢献している
<http://www.my-zaidan.or.jp/enterprise/index.html>

財団 明治安田こころの健康財団
1965年3月設立。子どもの育成に関する各種相談と、専門家育成のための研修活動や研究助成などを実施し、精神面からの子どもたちの健全育成に貢献している
<http://www.my-kokoro.jp/>

財団 明治安田クオリティオブライフ文化財団
1991年6月設立。若手クラシック音楽家の海外留学への助成や、地域の伝統文化の後継者育成への助成などを実施し、生活の質的向上とわが国文化の発展に貢献している
<http://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp/>

社会貢献活動の事例

会社の実施する事業

● **黄色いワッペン贈呈事業**
全国の新入学児童を対象とした交通安全キャンペーンの一環として「黄色いワッペン」の贈呈を1965年から実施しています。



● **「関西を考える会」の活動**
1976年から「ふるさと関西を考えるキャンペーン」をスタート。毎年、関西の歴史・文化に関する冊子を発行しています。



従業員の参加によって実施する事業

● **社会貢献活動基金による地域貢献活動の実施**
従業員の募金を原資として、NPOなどへの支援、従業員の行なうボランティア活動への支援、国内外への人道上の災害支援などの社会貢献活動を2004年から実施しています。



財団などの実施する事業

● **コミュニケーション支援ボードの展開**
財団法人明治安田こころの健康財団では、日常のコミュニケーションにバリアのある方をサポートするコミュニケーション支援ボード（話し言葉に代わる絵記号を使ったツール）を2004年から作成・配布しています。



障がいのある方との共生社会のために

相互扶助の精神に基づいて障がいのある方々を支援しています。
代表的な活動として、「ふれあいコンサート」や「エイブルアート・オンステージ」を開催しています。

「ふれあいコンサート」を開催しています

障がいのある子どもたちに「生の音楽」を届けるために

日頃コンサートに行く機会が少ない障がいのある子どもたちに「生の音楽」を楽しんでもらうことを目的として、ザ・ワイルドワンズの鳥塚しげきさんによる「ふれあいコンサート」を1984年から全国の養護学校で開催しています。

会場設営から音響機材の設置まで鳥塚さんと当社従業員だけで行なう「手づくりのコンサート」で、開催費用は当社従業員の募金で運営する「社会貢献活動基金」から拠出しています。

記念すべき第100回公演を開催

このコンサートは、1999年までに全国47都道府県を一巡し、2007年10月5日には、新潟県立小出養護学校で100回目にあたる記念すべきコンサートを迎えました。

鳥塚さんがアニメメドレーや童謡などを歌うと、子どもたちは手拍子をしたり、一緒に歌ったり、踊ったり、大喜びでした。アンコール曲の「世界に一つだけの花」では、教職員や保護者のみなさんも一緒になって盛り上がりました。

■ 2007年度開催校

10月1日	神戸市立青陽東養護学校
10月2日	滋賀県立三雲養護学校
10月3日	石川県立明和養護学校
10月4日	石川県立七尾養護学校
10月5日	新潟県立小出養護学校



100回目となった新潟県立小出養護学校でのコンサート

開催校のみなさまからいただいたお礼のコメント

新潟県立小出養護学校長 青木 仁さま

鳥塚しげきさんの楽しいトークを交えた歌、ピエロショーに、子どもたちは立ち上がり、身体を揺すり、一緒に歌いながら、全身でその感動を表現していました。心に残る「ふれあいコンサート」をプレゼントしていただき、本当にありがとうございます。心より感謝を申し上げます。

滋賀県立三雲養護学校教頭 藤田 浩二さま

子どもたちは、大きな機材など、いつもと違う雰囲気戸惑っていました。でもトリさん(鳥塚しげきさん)が歌いながらステージに登場すると、笑顔が見られ、和やかな雰囲気です。手拍子をしたり、一緒に歌ったり、席から立って身体を揺らしたりして楽しむ様子がとても印象的でした。最後は大合唱で、最高に盛り上がりました。また、来てくださり、ありがとうございます。

開催ホスト支社のコメント

神戸支社長 山口 秀樹

学校関係者はもちろんのこと、保護者のみなさんからも感謝され、改めてこの活動の意義、そして24年も続いてきた理由がわかりました。まさに「百聞は一見に如かず!」。これからも応援していきます。



金沢支社長 国武 告誠

「ふれあいコンサート」が、今回で100回を迎え、私も開催地の支社長として初めてコンサートに参加しました。このコンサートが、想像をはるかに超えるやさしさと、温かい気持ちで開かれていたことを、もっと多くの人に伝えたいと正直思いました。



エイブルアート・オンステージ「飛び石プロジェクト」の公演を実施しました

障がいのある方々の舞台芸術づくりにチャレンジ

障がいのある方々とアーティストが、これまで見たことのない表現や舞台作品づくりに挑む「エイブルアート・オンステージ」を実施しています。

そのプログラムの一つが「飛び石プロジェクト」。イギリスから演出家2人が、繰り返し(飛び石を置くように)来日し、障がいのある方や俳優などとワークショップを重ねて、作品を創り上げます。2007年10月には、さまざまな表現手段を組み合わせ、従来の演劇の常識を覆す全く新しい2つの作品を発表しました。



「stepping stones」
(演出:ジョン・バレルマー氏)



「血の婚礼」
(演出:ジェニー・シーレイ氏)

「飛び石プロジェクト」演出者からのコメント

グレイアイ・シアター・カンパニー* ジェニー・シーレイ氏(芸術監督)

飛び石プロジェクトは、障がいのあるなにかかわらず、非凡なアーティストたちと出会うチャンスを私に与えてくれました。

そして、これまでのすべてのワークショップで出会った人々の持つスキル、オープンな心とその温かさに支えられ、本当の意味で、あらゆる人がかかわることのできる演劇の新たな道筋を探し、演劇ならではの共通言語を創り出すことができました。

* グレイアイ・シアター・カンパニー:
ロンドンに拠点を持つ、身体障がいのあるプロのアーティストによる劇団で、シーレイ氏自身もかつてろう者の俳優として活動。

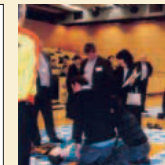


Column

外国人対象の避難訓練会場として拠点を提供

2004年以降、当社が中核企業として参画している「東京駅周辺防災隣組(約65社の企業が参加)」が、2007年度防災功労者「内閣総理大臣表彰」を受けました。

この「隣組」で当社は、3年連続で千代田区帰宅困難者対策訓練や外国人対象の帰宅困難者避難訓練の会場として明治安田生命ビルを提供してきました。とくに、外国人を対象とした避難訓練は、全国でも初の取り組みであったことから高く評価されました。



Column

SRI(社会的責任投資)の取組み ——「責任ある投資のための企業評価基準」を作成

当社の関連会社、明治ドレッシング・アセットマネジメント株式会社は、投資信託・投資顧問事業を展開しています。同社は「投資活動とは、単に高いリターンを求めることだけでなく、より良い社会を実現するために資金を活用する行為である」という点に着目して、独自のCSR評価基準を策定しました。

この基準の独自性は、第一に「投資家の責任」という理念を明示した点、第二に企業評価の視点を具体的に示した点にあります。

基準策定にあたっては、外部の専門家6人を中心とする「責任投資評価基準委員会」を設置。企業と投資家が、より良い社会を実現するために果たすべき責任について議論を重ね、2006年12月に、「責任ある投資のための企業評価基準」を発表しました。

全国各地で地域密着型の社会貢献活動を展開

全国各地の営業拠点や各部署では、それぞれの地域の特性、ニーズにあった多彩な社会貢献活動を展開しています。活動の一部をここに紹介します。

各地で社会貢献活動を推進しています

地域の社会・環境に貢献するために

全国各地の営業拠点や各部署では、それぞれの地域の特性、ニーズに合致した活動を展開しています。実施に際しては、地域住民のみならず、行政、NPOなどと協力しながら、推進しています。

○ 拠点周辺での清掃・美化活動を実施 (全国各地)

全国各地で拠点周辺、海岸、河川などの清掃・美化活動を行っています。



● 棚田の保存活動に参加 (長野県千曲市)

公法人第四部では、信州姥捨「田毎の月」棚田保存同好会に参加し、田植え・草刈りなどお米づくりを通して、美しい棚田の風景を守る活動を行っています。

● 車いすバスケットボールを支援 (福岡県久留米市)

久留米支社は「りんどう杯車いすバスケットボール大会」を支援しています。会場ではバザーを開催し、その収益金や職場での募金を寄付しました。



○: 主な清掃・美化活動拠点
■: あしながPウォーク10参加支社



● 釧路の宝を守れ! 釧路湿原「自然の番人宣言」(北海道釧路市)



釧路支社は、釧路湿原などでごみの不法投棄等の廃絶をめざした「自然の番人宣言」の賛同企業第一号として名乗りをあげました。釧路湿原の清掃のためにごみ袋を寄贈するとともに、従業員が定期的に湿原の清掃活動に参加しています。

● 障がいのある方々を「うちわ祭り」観賞会に招待 (埼玉県熊谷市)

熊谷支社では、身体障がい者の方々を支社に招待し、支社正面がメイン会場である「熊谷うちわ祭り」の風景を楽しんでいただきました。当日は、従業員がボランティアで介助サポートを行いました。



● 道路や公園の「里親」として (東京都台東区)



上野支社は、区道や公園などの公共施設を、区民や企業などが里親となり、責任をもってお世話をする台東区の「まちの美化里親制度」の認定団体として活動しています。日常的な清掃・美化活動のほか、不法投棄、施設や樹木の破損などの区への情報提供、除草を行っています。



● 地域への感謝の気持ちをごめて (東京都千代田区)

営業教育部の入社2年目の職員46人が、「第3回千代田区高齢者ふれあい秋まつり」にサポートボランティアとして参加しました。当日は受付、誘導、模擬店の運営、ごみの分別作業などを担当しました。

■ 「あしながPウォーク10」に参加して国内外の遺児を支援 (全国14支社)

2007年春に開催された第32回「あしながPウォーク10」に、全国14支社約360人が参加しました。これは、「あしなが育英会」が主催する活動で、国内外の遺児の現状を訴えて行進し、寄付を募ります。参加した従業員はウォーキングやイベントに参加するとともに、遺児への寄付を行いました。



(参加支社: 秋田、山形、新潟、松本、群馬、立川、甲府、福井、鳥取、高松、高知、北九州、長崎、宮崎)

ボランティアに参加している職員の声

視覚障がいの方のために、音声で情報を伝える「録音図書」を製作しています

私が所属する「旭川朗読朋の会」は、視覚障がい者の方に聞いていただく録音図書や情報テープなどを製作するボランティア団体です。図書は旭川点字図書館を通して全国に貸し出されています。

私は現在、本や雑誌を朗読して録音する「音声訳」と、音声訳をする本の選択をしています。利用者の方が興味をもって楽しく聞いただけの図書が製作できればという思いで活動させていただいています。録音図書は一度製作すると何年も蔵書として利用されるので、会では朗読の自主研修を行ない、年に一度は専門講師を招いた研修も行なっています。



旭川支社
宮崎 由紀子

子どもの命・安全を守る活動

安心・安全な街づくりに貢献し、
次代を担う子どもたちを見守る活動を行なっています。

地域の子どもたちを見守っています

地域防犯に貢献するために

昨今、子どもたちが登下校中に事件・事故にあう事例が多発しています。登下校の時間帯に地域で営業活動をしている当社として、安心・安全な街づくりに何かできることはないか——。そのような思いから生まれたのが明治安田生命労働組合と連携して取り組んでいる「子どもの命・安全を守る」地域貢献活動です。

営業職員が地域内で活動するときは、取り組み内容を記載したネームタッグを携帯し、営業職員の地域防犯への意識を高めています。これには犯罪行為へのけん制効果も期待されています。

また、営業職員の携帯電話に最寄りの警察などの電話番号を登録し、不審者を見かけた場合など、地域行政へただちに情報を伝達し、連携できる態勢をとっています。さらに不測の事態に備えて、防犯笛をネームタッグとあわ

せて携帯し、子どもがトラブルに巻き込まれそうになったときは、近隣への救助依頼や警察への110番通報を迅速に求められる態勢を整えるなど、子どもの保護・安全確保に積極的に取り組んでいます。



ネームタッグ、防犯笛

だいたいようぶキャンペーンへの協賛

“安心安全の輪を広げよう”をテーマに子どもを犯罪や災害から守る地域づくりキャンペーン「だいたいようぶキャンペーン※」に協賛し、安心・安全な街づくりに取り組んでいます。

※「だいたいようぶキャンペーン」は、「だいたいようぶキャンペーン実行委員会」(会長 國松孝次(元警察庁長官、認定NPO法人救急ヘリ病院ネットワーク理事長))が主催するキャンペーン



ポスター



「だいたいようぶキャンペーン」のロゴマーク

各支社での取り組み事例

子どもの安全を見守りながら清掃活動 (宇都宮支社)

「地域で守ろう! 子どもの安全」のキャッチフレーズが入ったウインドブレーカーを着用し、定期的な清掃活動を実施。同時に登校時の子どもの安全を見守っています。



営業活動車にも防犯プレートを掲示 (金沢支社)

「地域で守ろう! 子どもの安全」のキャッチフレーズが入ったプレートを営業活動時の車に掲示することで、地域の防犯意識を高め、犯罪抑止を図る取り組みを推進しています。



環境保全活動の考え方、主な活動

オフィスの省エネルギー化と省資源化を中心に、
地域の清掃活動や環境教育などにも取り組んでいます。

環境保全への啓蒙に取り組んでいます

社内で、社外で

事業活動の省エネルギー化や省資源化に努めているほか、毎年6月の環境月間には、社内報やイントラネットに環境関連ニュースを掲載し、社内啓蒙を進めています。

また、全国の小中学校の環境教育を支援する目的で、「全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール」に協賛しています。

2007年度「全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール」
明治安田生命特別賞



中学校の部



小学校の部

オフィスの省エネルギー化と省資源化がテーマです

電力使用量を削減するために

4つの主要ビル(明治安田生命ビル、明治生命館、東陽町ビル、事務センタービル)で、それぞれ目標値を定めて、各種省エネ設備の導入とその効果的な運用に取り組んでいます。

2006年度は、神奈川県川崎市内在の大規模共同ビルで、建物の中央監視盤設備を更新。これによって、年

間約350万メガジュール¹⁾のエネルギー使用量を削減できる見込みです。

さらに各支社では、低燃費車(平成22年度燃費基準達成車)の導入を進めており、2006年度に10台、2007年度に6台を加え、低燃費車は全社で計47台となっています。

なお2007年6月には、5つの施設(明治安田生命ビル・明治生命館、函館ビル、青山パラシオ、栄三丁目ビルディング、大阪梅田ビル)が、東京タワーなどの全国のキャンペーン参加施設がいっせいに灯りを消す「ブラックイルミネーション2007」に参加しました。

紙使用量を削減するために

本社では、電子文書管理システムの利用促進や複合機の導入によって紙使用量を削減しています。

2006年度の紙使用量は、約7,879万枚。紙のリサイクル率は93.3%、コピー用紙の再生紙利用率は98.4%となっています。

グリーン購入を進めています

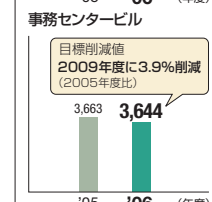
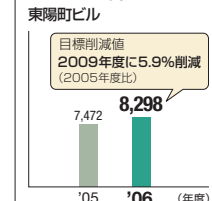
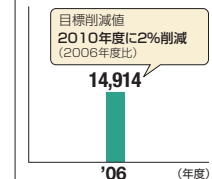
事務消耗品を環境配慮型に

本社で使用する事務消耗品については、エコマーク商品に加え、グリーンマーク商品・グリーン購入法適用商品などの環境配慮型商品を優先的に購入できるシステムを導入しています。

今後も環境に配慮した事務消耗品の購入をよりいっそう進めていきます。

¹⁾メガジュールとは
ジュールとはエネルギーを表す単位で、メガジュールはその100万倍。家庭1世帯で1年間に使うエネルギーは、約4万5,300メガジュール

■ 温室効果ガス総排出量(t-CO₂)の実績と目標
明治安田生命ビル・明治生命館



■ 温室効果ガス総排出量(t-CO₂)
注)自動車などによる排出量を含むビル全体の実績であり、東京都から提示された各燃料・熱別の排出係数によって算定

■ 紙使用量の実績(本社)

